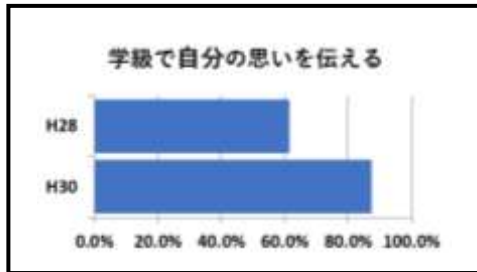
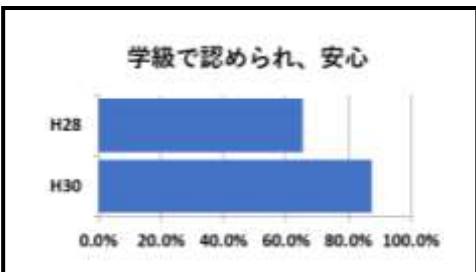
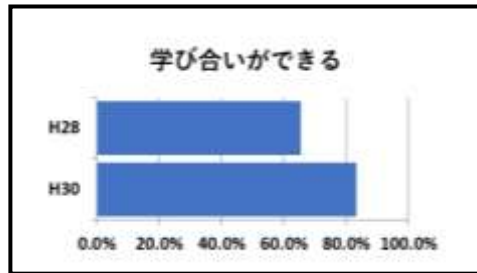
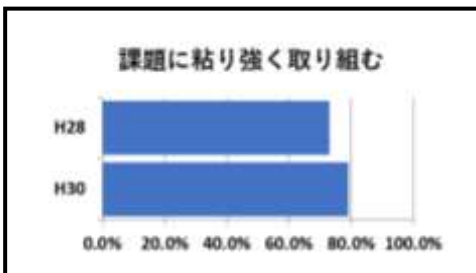
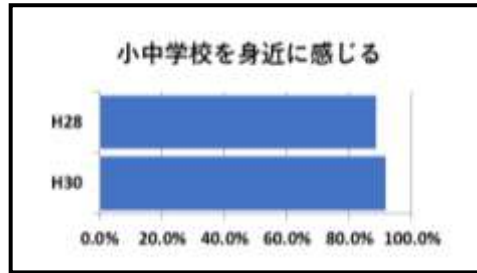
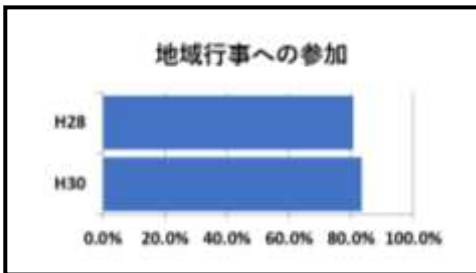
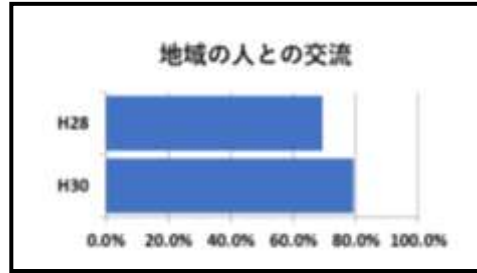
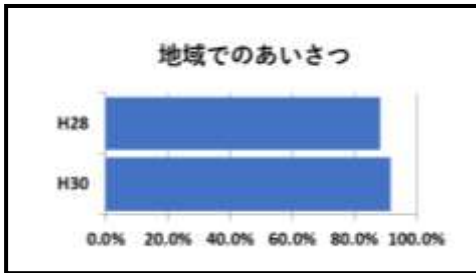
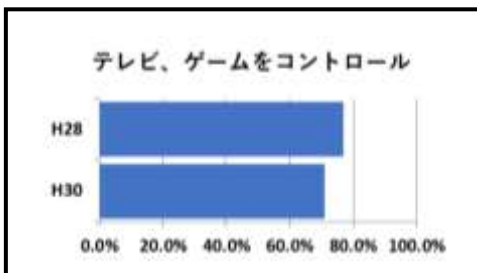
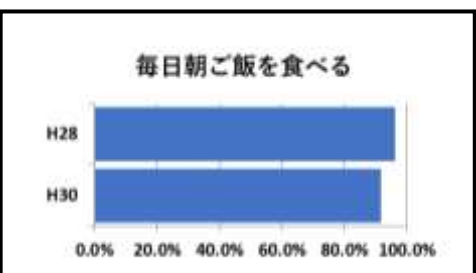
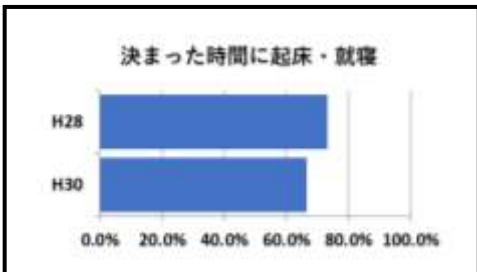
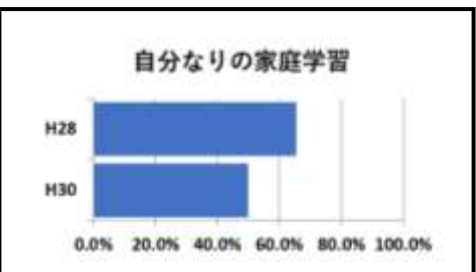


「校種間連携」研究 成果と課題

□ 成果



□ 課題



○ 現中学3年生の1年次と3年次との比較
(平成30年7月実施)

□ 小中連携・地域連携の取組に対しては肯定的に捉えている。今後も実践を継続していく。

□ あいさつ、交流、参加など人との関わりが自分にとって良いことであると感じ始めている。自己有用感を感じられる取組をさらに創っていきたい。

□ 学習過程スタンダードの実践が定着し、学び合いの場面が設定されていることがうかがわれる。

□ 自分で考える、学び合いを通して課題解決できる生徒が増えていることがうかがえる。

□ 様々な取組を通して、話し合い活動を取り入れていること、生徒会が「思いを伝える」ことを重視した活動を取り入れていることが浸透し始めている。

■ 家庭での自己コントロールに課題がある。家庭と連携して生活設計力を高める取組を行っていく。

■ 家庭学習習慣が確立していない生徒が多い。学習方法を含め、個別相談を実施する。

■ 宿題を画一化せず、生徒の学習定着状況に合わせて出していく。

■ SNSについては生徒、保護者と再度ルールを確認し徹底を図る。